



「環境との対話の世界」と対話する

「獲得した力」を使って、心のままに試せること



こんなことができる私



こうするとどうなる？



「子どもにとっての喜び」が生まれ、深まるには？

環境との出会い、対話が大切

「横並びのまなざし」で子どもの世界を共に感じ、面白がる

- ・環境が子どもにとってどのような存在になり得ているか（ただ「在るだけ」ではなく）
- ・どういった「子どもと環境との対話」が生まれ得るか（「こう遊んでほしい」「こうなってほしい」と大人側の願いのみで環境をつくるのではなく）
- ・「子どもと環境との対話」にどう寄り添い協働できるか



Aちゃんはどんなものとどんなふう
に遊んでいる？
子どもの目線で環境を眺める。
「私だったら？」も一つの視点。

<環境の工夫>

- ・魅せる環境
物の居場所が決まっている。
視覚的な美しさも大切。（例えば絵本は表紙が見えるように側面ではなく平面で置くなど）



- ・思わず触ってみたいくなる環境
ジョイントマットにスポンジなどの異素材を張り付ける。
ハイハイの床の環境を考えてみる。
つかまり立ちをした目の高さにいたずらボードを作るなど。



【映像1】

「0歳児の集中力・空き缶あそび」

「なげる・ころがす・まわす」
空き缶を手に取り、投げたり回したりして音や感触を楽しんでいる漉太くん。
日々繰り返し投げることで、どうやったら回るか、どこで回すと音が鳴るかがわかっているようだった。

—新宿スタジオ『乳幼児へのまなざし第1巻』—



演習① 気づいたこと・感じたことを自由に書き出してみよう

音や振動を感じている

時々声をかけて“見ているよ!”と伝えている

手や口で確かめている

遊びが変化していく

じっくり試しているのを止めていない

じっくり遊べる環境がある

保育者の顔を見て、嬉しさを共有している

子ども

保育者



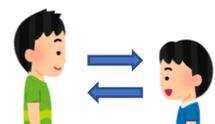
演習② 子どもの目線から読み取った心の動きを書き出してみよう

<p>缶を床で鳴らしている様子から</p> <p>床の方がいい音がするよ!こっちはどんな音かな?</p> <p>転がった缶を見なくても拾っているところから</p> <p>思わぬところに転がっていくのも面白いな!</p>	<p>保育者に目線を送って微笑んでいる様子から</p> <p>見て!ひっくり返してみたよ!先生が見てると嬉しい!</p> <p>十分遊んで別のものに興味が移っていく様子から</p> <p>面白かった!次は何で遊ぼうかな?</p>
---	--

大人は、つかむことや持ちかえることまでは成長として喜びますが、ものを投げはじめたとたん、いけないことと捉えて、やめさせようとする人が多いようです。ところが、この赤ちゃんがものを投げるあそびには、とてもおもしろい発見があるのです。

—東京家政大学ナーサリールーム井桁容子(2005)
『「ていねいなまなざし」でみる乳幼児保育』フレーベル館pp.8-13—

【映像1】「向かい合うまなざし」で捉えると…



向かい合うまなざし
こちらの要求を全面に出し、「期待される子ども像」を押し付けてしまいがちになるまなざし

「べき」「ねば」「はず」

床が傷ついてしまうからやめさせねば

「私」に当てはめた見え方(同感的見方)

面白くない。いつまでやるの？

「なってほしい姿」

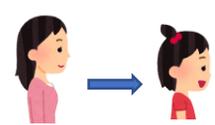
違うもので違う遊び方をしてほしい

保育者側の思いとタイミングで関わる

今、これをやってほしくない

保育者の中に願いがあることが悪いわけではないが、向かい合うまなざしだけで見ると子どもの世界が見えてこない

【映像1】「観察者のまなざし」で捉えると…



観察するまなざし
子どもと関わろうとすることはなく、外からの評価者としてみる「後ろからながめる」まなざし

動作の数

何回投げたか？
裏を持って投げた回数？

具体的な動作とその結果

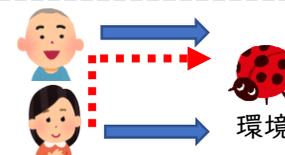
そのほかの指でつまむように缶のふちをもって手首を使って投げた等

発達の様子

四つん這いで移動する
左右の手にそれぞれ物をもち、自分から離すことができる

※1 発達表に書かれている9~10か月児の「できること」と同じことができる状態だと客観的に確認はできて、澁太くんのことが「具体的」に見えてこない。

【映像1】「横並びのまなざし」で捉えると…



横並びのまなざし
子どもがみている世界を共にみて、思いを共にしようとするまなざし

※2

- ・行為⇒「どのように？」を見る
「心は名詞としてではなく、副詞として見るべき」(Ryle,G.)
- ・表情や仕草⇒心の動き、情感、訴え(心のメッセージ)を読み取る
「『訴え』は『情感込み』で伝わる」(佐伯胖,2017)

どんなふうに(副詞)、
どうしてる(動詞)？

表面的な要求
ではない

情感をもたらしている本人の
隠された意図、願い、思い

子どものまなざしで見ると
どんな世界が見える？

※1、※2 岩田恵子「第2章『観察する記述』から『感じ取る記述へ』」佐伯胖編著(2017)
『「子どもがケアする世界」をケアするー保育における二人称的アプローチ入門』

乳児の世界が見えてくる面白さ

乳児は主体的に環境と対話している

- ・乳児が環境と出会うとき、どう心が動くかは個々に異なる。
- ・乳児の目が輝くとき、周囲(保育者や他児)も自然と惹きつけられる。
- ・共に面白がってくれる、味わってくれる他者がいることで、乳児の対話の世界は広がり、深まっていく。



受講生の報告書より

- 子どもの側に立つと、見えてくる景色や感じ方も変わってくることを実感することができました。頭ではそうしているつもりでしたが、書き出してみたり他者と語り合ってみると、まだまだ大人都合で関わっていると振り返りました。
- 映像で様々な表情、仕草から心の動きが読み取れた。そこには、共に面白がってくれる、味わってくれる他者がいる事で子どもの対話の世界が広がって深まっていくのだと感じた。自園のクラスの子どもの生活や遊びも横並びのまなざしを意識して保育者が共に感じ、面白がる事を実践し、クラス担任同士共有していきたい。新人保育者にも子どもの世界が見えてくる面白さを伝えていきたい。
- 子どもの世界は奥深く面白いなと感じました。“横並びのまなざし”で見えてくる、子どもの世界をもっと共に感じていき、様々な心の動きに気付いていきたいです。